

新寄附講座「脳神経先端医学講座」伊賀瀬 圭二 准教授インタビュー ～様々な脳疾患に応用できる集束超音波治療（最先端脳神経外科治療）～

脳神経先端医学講座は、私が10年前から赴任している貞本病院の寄附講座として、2017年7月に開設されました。私は脳神経外科医ですが、現在は“切らない”脳神経外科治療である「集束超音波治療」も扱っています。

本講座の第一目標は、貞本病院に設置されている集束超音波治療器を用いた本態性振戦の治療を確立することです。本態性振戦とは、何かをしようとするすると手のふるえが起こり、日常生活に支障を来す病気です。原因不明で、薬の治療にも限界があるため、これまでは頭に小さい穴を開け、細い針の先端で患部を焼く治療が行われてきました。しかし、集束超音波治療は、頭蓋外から「超音波」で焼くことで症状を軽減させます。頭部を切開しないため、患者さんの負担が小さく、今後期待される治療法です。また、脳腫瘍やアルツハイマー病など、様々な脳疾患にも応用できる可能性があります。

さらに、脳はBBB（Blood-Brain-Barrier：血液脳関門）により、薬を含めた有害成分が入りにくい構造があります。集束超音波治療はこのBBBを一時的に開放できることが証明されており、この効果を用いた抗がん剤治療の研究も進めて行きたいと考えています。



インタビューに答える伊賀瀬准教授